

harmony

— 岩手県立中部病院 地域連携便り VO1.14 —

— ごあいさつ —

院長 えんどう ひでひこ
遠藤 秀彦



日頃より大変お世話になっていることに対し感謝申し上げます。

記録的な猛暑、集中豪雨、土砂崩れ、地震・噴火等々の報道が後を絶たず地球全体規模で大きな変動が起きているような気がしてなりません。

さて、わが国では少子高齢化が急速に進みいわゆる 2025 年問題はもうすぐそこまで来ており、その 10 年以上先を走っているのが岩手県であります。現在、昨年 6 月に制定された「地域医療介護総合確保推進法」の下、「地域医療構想」の策定が全国で進められております。これは高齢社会にどのようにして対応していくのか、10~20 年後の人口動態・医療介護需要を見定めて医療介護提供体制の将来設計をしようというものです。この「地域医療構想」は医療体制の適正化・再編を目的としており、地域の病床を高度急性期・急性期・回復期・慢性期に分けてそれぞれの必要数を割り出して決めていくこととなります。この策定に当たっては「地域包括ケア」もキーワードであり、地域医療・介護を推進するには不可欠なものになっています。当地域では他地域に先駆けて病診・病病・医科歯科・病薬連携が進んでおり、今後もこれまで培った連携を住民・行政と一緒にあって発展させることが大切です。まさに地域力・現場力・連携力が試されることとなります。

「harmony」をお読みいただいた皆様には医療連携に関してご忌憚のないご意見をいただけるようお願い申し上げます。

ちゅうぶ 日和



第 1 回「照井榮」の巻

このコーナーでは、中部病院内のいつもはなんとなく見過ごしている「こんなところがあったんだあ」をピックアップして紹介します。



Photo No.1

【なまえ】「立体彫刻」

【所在地】正面玄関風除室

昭和 7 年いまの北上市和賀町に生まれた照井榮は、昭和 30 年彫刻家を志して上京、以来今日まで、石彫、それも機械を使わない直彫りにこだわり、東北人らしい粘り強さで重く冷たい素材である石と向き合い、着実な創作活動を繰り広げてきた。(岩手県立美術館ホームページより)

中部病院内レストランの入り口にも照井榮の作品がいくつか並んでいます。たまには足を止めて鑑賞してみたいはかがでしょうか？



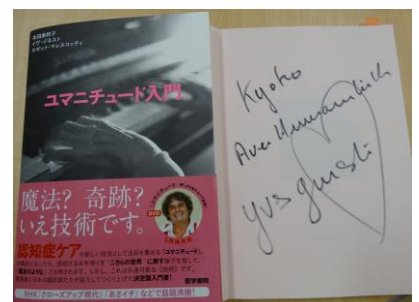
地域医療研究会 ユマニチュード

優しさを伝えるケア技術

今年度第1回目の地域医療研究会は、世界で注目されている認知症ケアの新しいメソッド「ユマニチュード」の考案者イヴ・ジネスト先生と、日本の先駆者である本田美和子先生をお迎えしての特別講演会を開催しました。

「見る」「話す」「触れる」「立つ」を4つの柱とし、あなたは大切な存在であるということをお伝え、人間らしさを取り戻す魔法のような技術。当日は、中部病院開院以来最多の200名を超える参加者。「感動しました」「明日から職場で実践したい」「日々のケアを振り返るいい機会になった」との声が多くありました。新しい発見を持ち帰り、日々の業務や日常生活に活かしているのではないのでしょうか。

次回の地域医療研究会は、例年と同様に事例発表会として年明けに企画いたします。ふるってご参加いただけますようよろしくお願いいたします。



病薬連携研修会

6月25日(木)に、治療内容や副作用モニタリングなどの情報を病院と保険薬局が共有し、充実した医療に結びつけることを目的として「中部病院病薬連携研修会」を開催しました。

薬剤科からの病薬連携アンケート結果・連携ツール報告に続き、当院呼吸器外科長 那須元一先生より「肺がんについて～病薬連携のお願い～」と題し、外来化学療法の基本的な治療法から地域連携の重要性まで詳しくご講演いただきました。講演後のアンケートでは、ほとんどの参加者が有意義だったとの回答であり、「普段なかなか聞けない話を聞いた、参加してよかった」などの感想がありました。これからは、病院と保険薬局が情報を共有し切れ目のない薬物療法を実施していくことが求められています。当院でも地域医療連携の一環として「病薬連携」を推進してまいりますので、ご協力をお願いします。



地域連携クリニカルパス

4月より乳がんの地域連携クリニカルパスの運用が始まりました。診療の標準化や予定が可視化されることはもちろん、地域の医療を守るという重要な役割も担っている地域連携パス。現在当院では下記の地域連携パスが稼働しています。



「胃・大腸がん」「乳がん」 「急性心筋梗塞」地域連携パス



「わたしのカルテ」を使用して運用する病院と診療所を結ぶ循環型パス。日頃の診療はかかりつけの先生。節目の月には中部病院で検査や診察。

胃・大腸がん	手術から概ね 5 年間併診の運用。
乳がん	手術から概ね 1 年後から 10 年間併診の運用。
急性心筋梗塞	発症から 1 年後の心臓カテーテル検査までの運用。

「脳卒中」・「大腿骨頸部骨折」地域連携パス



急性期を乗り切った後、リハビリを行う病院へ移行できるように作られた病院同士の連携パス。

脳卒中・脳梗塞

地域包括ケアネットワーク形成支援システム(県が設置)を利用した運用。

連携病院：北上済生会病院・総合花巻病院・南昌病院・いわてリハビリテーションセンター・東八幡平病院・荻野病院・町立西和賀さわうち病院・栃内第二病院・川久保病院

大腿骨頸部骨折

紙面及び FAX を利用しての運用。術後 12 日前後で転院。

連携病院：北上済生会病院・総合花巻病院・町立西和賀さわうち病院・川久保病院



地域医療福祉連携室からのお願い

◇当院は予約制です◇ 基本的に外来診療は予約制とさせていただきます。

患者さんが予約なしに紹介状をお持ちいただいた場合、長時間お待たせしたり、外来の状況によっては予約を取り直して後日来院いただくこともありますので、お手数をおかけしますが、緊急の方以外は FAX で事前予約のお申込をいただくようご協力をお願いいたします。

岩手県立中部病院 地域医療福祉連携室
〒024-8507 岩手県北上市村崎野 17 地割 10 番地
TEL 0197-71-1511 FAX 0197-71-1881 (地域連携室専用)
URL <http://www.chubu-hp.com/> (平成 27 年 8 月)



復興と再生へ
-Together As ONE-
岩手県立病院

